月刊
新翔タイムズ
第10号
新翔タイムズ編集室
発行・南紀州新聞社

130人の新入生迎える

七瀧校長が式辞
「熱意なくして成功なし」

平成21年度入学式が行われ、130人（男子69人、女子61人）が入学した。国歌斉唱、入学生呼名の後、七瀧高至校長が「一つの言葉を送ります。『高い目標を掲げて、自分を鍛え、努力する』。高校生としての3年間は、人生において精神的にも肉体的にもその基礎を確立し、将来を方向付ける上で最も大切な時期。この3年間を実り多いものにするためには、卒業後の進路をしっかり見据えて、自分の意志で目標を定め、その達成を目指して、一歩一歩地道に努力することが大切です。100年に一度といわれるこの大不況の中で、3年後、将来の夢を実現するため、全国の高校生を相手にして、就職試験や大学入試を突破しなければなりません。熱意なくして成功なしといわれるように、一つのことを成し遂げるには、その人の持っている能力よりもむしろ、頑張ってみようとする熱意が大切です」と式辞。

伊藤算志育友会長が来賓祝辞を述べ、入学生を代表して生地伶さんが「総合学科の新しい環境で、興味関心のあることを選択し、将来に向かって一生懸命勉強したい。クラブ活動では技術を高めるとともに仲間意識を形成し、友人を大切に、学校行事にも積極的に取り組み、文武両道を目指し、精いっぱい努力することを誓います」と宣誓した。

生地伶さんが入学生を代表して宣誓した

新・転任の教職員が紹介された

授業態度、校内美化など重点
平成21年度始業式

平成21年度の始業式が行われ、式辞の中で七瀧校長は、「創造愛郷 未来」という校訓に触れ、世界的な不況という厳しい時代だからこそ、時代に対応できる人材となってほしいこと、地域から信頼される学校を作り、地域に貢献できる人材を育てたいということ、自分の頭で考え、判断し、行動でき、また自分で責任を取れる人間になってほしいことを話した。また今年の重点目標として「落ち着いた授業態度、校内美化の徹底、服装・頭髪など身だしなみの改善について、先生方にお願いしたので、生徒諸君も意識して生活してほしい」と述べた。

引き続き新・転任の教職員が紹介され、先生方は口々にフレッシュな決意を述べた。

七瀧校長が式辞

福祉に貢献できる人材を
基礎介護の授業始まる

今年度から始まった基礎介護の授業は、本校教諭以外に元新宮市社会福祉協議会事務局長の菟原雨石先生を招き、3年生の選択者16人が介護のあり方や介護する際の心構えについて学んでいる。

二回目の授業では、生徒たちは介護をする側、介護を受ける側に分かれて、温かい信頼関係を築くにはどのようなことを心掛けたらよいかについて体験学習を行った。

介護を受ける人には目を閉じてもらい、何も伝えずに飲み物を口に含ませた。介護を受けた生徒は「何も伝えてくれていなかったので、目を閉じている間はとても不安で、何を飲んでいるのか心配しました」と感想を述べた。

体験学習を終えて生徒たちは、介護をする人は受ける人に対して、どうすれば本人の気持ちを大切にし、人間としての権利を尊重できるのか常に相手を中心に考え、性格や能力などをよく理解し、その状況にふさわしい介護を努めることの大切さを感じることができた。

家族が少人数化し、さらに高齢化社会が進む中で介護を担う人が必要になってきた。社会的なプロによる介護の必要性も高まり、学校教育の一貫として社会福祉に貢献できる人材を育成していきたいと考えている。

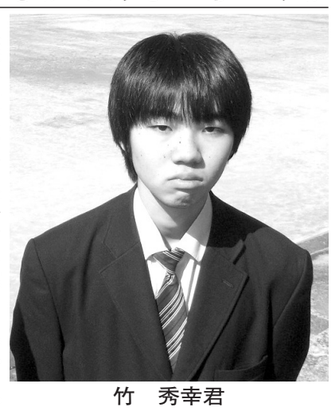
竹 秀幸君 作文コンクで優秀賞
大原学園和歌山校開校記念

世界遺産について私が思うこと

人は、すぐ傍にあるものを当たり前のものととらえ、あまり関心を持たないように思う。現に僕も熊野古道が世界遺産に登録されるまでそうであったが、授業で熊野古道について話を聞いたことで関心が高まり、今回このテーマを選ぶに至った。

熊野古道とは、熊野三山に詣でる為の道であり、古くから神々の住む聖地、死霊の集まる再生の地として崇められた。昔の人は来世の幸せを神々に託すために厳しい道を乗り越えて詣でていた、という話を聞き、今でこそ人の手が加わって歩きやすくなっているので高齢の方でも参拝できるようになったが、昔のような厳しい道では、参拝するのも難しかっただろうと思った。そしてそんな様子から昔の人々の信仰の深さが感じられた。

昔の人はそういう理由で参拝していたのに、今は世界遺産となったことや、テレビやネットを通じて熊野古道が有名になったことで、参拝しようとする人が多くなった。今の日本人を見てみると、神への信仰心や敬う気持ちを持たなくなり、困ったときにのみ神を頼るという悲しい状況が時代と共にでき上がってきていると思う。だから、今回の熊野古道を含み世界遺産に登録されることは、人々の文化的建造物への関心を高めることができ、現代人が忘れつつある古きを重んじる心を思い出すためのひとつのきっかけになるのではないかと思う。


竹 秀幸君

熊野古道について学んだことで、参拝の理由を知っているのと知らないのとでは、参拝の持つ意味が大きく違ってくると感じたので、来年熊野三山を参拝するときには、自分は神様に会いに行くんだという気持ちを持って参拝したいと思う。この作文を書いたことで熊野古道への関心が高まったが、僕はまだ熊野古道を歩いたことがないので、機会があれば実際に歩き熊野の自然を体で感じてみたい。

◆先生の紹介◆ 濱田絢子先生

はじめまして。4月から本校に参りました。担当教科は社会科、学年は3年3組の副担任、部活動はバドミントン部の顧問をしています。

私は三重県の出身で、和歌山県の高校に勤務するのは初めてのことです。どんな学校だろうかと最初はかなり緊張していました。しかし春休みにクラブ活動に来ていた生徒たちの元気のよいあいさつを受け、いい学校だと感じました。

あいさつは人づきあいの基本だと思います。高校卒業後、生徒たちは社会へと出て行きます。そのときにあいさつをはじめとして社会人たるにふさわしいマナーや教養が身に付いているように、手助けをしていきたいと思います。そして本校の総合学科・コース制という特色を生かして、それぞれの生徒に見合った授業を、教室の生徒全員が参加している授業を目指しています。

バドミントン部の23人の部員たちは個性豊かで、一生懸命に練習に取り組んでいる姿には私自身が勇気をもらいます。できる限りのサポートをして、精いっぱい上を目指してほしいと思います。同時にただ強いだけではなく、自律の精神と礼儀作法も身に付けたプレーヤーになってほしいと願っています。そして多くのことを身に付けられる部活動に、もっとたくさんの生徒が取り組んでほしいと思います。

さて私の趣味は楽器演奏です。今はバドミントンが楽しくて楽器に触れていませんが、時間を作って演奏したいと思っています。腕前は下手の横好きですが、それでも演奏していると心が落ち着きます。いつか「好きこそものの上手なれ」といえる日が来ることを夢見て続けていきます。

三重県出身とはいえ、新宮市は以前から時々遊びに来ていた場所です。そんなじみのある地の教育に貢献できることをうれしく思います。自分にできることを精いっぱいやり、生徒とともに成長できる教員でありたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。

地域の観光産業を学ぶ
南紀勝浦温泉旅館組合の協力で

3学年の選択授業「観光実務」が、南紀勝浦温泉旅館組合の全面的な協力により、スタートした。今回は、同組合青年部の奥川祐次氏（陽いずる紅の宿勝浦観光ホテル）、中照策氏（かつうら御苑グループ）、南秀平氏（ホテル浦島）、仲勝則氏（ホテル中の島）を講師に迎え、観光産業に従事するものとして必要なこと、地域の観光産業について学習した。

生徒からは「直接、温泉旅館を経営されている方とグループディスカッションができて、大変勉強になり、楽しかった」との声が多く聞かれた。

同組合青年部による授業は、5月には計4回行われる予定になっている。

あいさつ、集合訓練など学ぶ 新入生研修

本年度は、昨年実施された宿泊を伴う新入生研修を取りやめ、160人収容できる総合学科棟キャリア実習室での研修に切り替えることになった。

新入生は入学早々、体育オリエンテーションの中で、あいさつや集合訓練などを学び、総合学科の特色の説明や基本的生活習慣確立の意識付けを各担当教員が実施。整然とした受講態度のもと、実り多いものとなった。

日を改めて校歌練習や教科担当者からの学習指導も行われ、授業への姿勢や勉強の仕方がわかりやすく解説され、全員が大きな声で校歌を歌えるようになった。

クラブ紹介

硬式野球部

硬式野球部は今年度、新入部員を12人迎え、2年生2人、3年生6人、3年生マネージャー2人の計22人で活動している。昨年度までは部員が少なく、他の部から部員を借りて試合をしていた事もあったが、今年度は新入部員が多く入り、現在は活気に満ちあふれている。硬式野球部の目標は、もちろん甲子園に出場することであり、日々、グラウンドで大きな声を出して練習に励んでいる。練習では特に基礎・基本を大切にし、チームが一丸となれるようにお互いに支え合い、チームプレーを意識して取り組んでいる。新入部員が多いこともあり、チームとしてはまだまだ荒削りな面がたくさんある。しかし3年生がこの若いチームを積極的に引っ張り、また部員それぞれ随所に光る部分があり、個性も強いので勢いに乗れば強豪校とも熱戦を演じることができる可能性を秘めている。今後の練習次第ではまだまだ力をつけることができる部分が多くあるので楽しみ。夏の選手権大会まであと3カ月。硬式野球部は全員が一丸となって、甲子園出場を目指して頑張っている。